

洗 剤 等 の 出 荷 実 績 概 況

2013年(平成25年度)1月～12月

(出荷単位：t・%：前年同期比)

1.2013年(1-12月)総計出荷実績

項目 / 年度	2010年	2011年	2012年	2013年	前々年比	前年比
2013年間総計	36,895	36,276	37,620	36,378	100.3%	96.7%

(2013年年間及び20年間の比較)

項目 / 年度	1993年	2003年	2012年	2013年	93年比	03年比	前年比
年別総合計	48,280	42,861	37,620	36,378	75.3%	84.9%	96.7%

2013年度(1-12月)日本クリーニング用洗剤同業会(以下当同業会)に加盟する13社の出荷実績は36,378トンとなり前年比で1,242トン減の96.7%でありました。前々年比からは102トン増の100.3%でありました。また、20年前との比較では75.3%となっており、当業界としても厳しい状況と言えます。

<全体コメント>

当同業会の顧客は①ホームクリーニング②テキスタイルサプライ(リネンサプライ・病院寝具・ダスコン・ダイアパー4団体)③おしぼり業者④施設ランドリーであります。

ホームクリーニングにおいては、2013年度1-12月度は総務省統計局『家計調査報告』によると一世帯あたり(二人以上の世帯)のクリーニング代支出額は、6,986円と前年比386円減の94.8%となりました。(1993年度18,835円 37.1%、2003年度10,070円 69.4%)

このホームクリーニング市場の縮小傾向は、繊維製品の素材変化に伴う家庭洗濯に対応した衣類の広がりや、末端消費者の経済意識の高まりによるホームクリーニングへの出し控えが大きな原因であることは言うまでもありません。

加えて最近では、安価な衣類の広がりやクールビズの浸透や、顧客の一部である『団塊の世代』の大量定年が終わり、Yシャツ・スーツ・コート等のクリーニング需要が低下しているのが現状です。商業洗濯としての付加価値性を実現し、顧客に認識される需要拡大策を講じ、更に取引価格を引き上げない限り市場縮小傾向は継続すると推察します。

また、大手ホームクリーニングチェーン店の売上が減少傾向の中で、更に地域密着型の個人経営一般クリーニング店の廃業も増加傾向にあり、これも市場縮小に影響していると思われます。後継者不在と建築基準法適合の為の設備投資が経営上の大きな負担となっていると考えられ、この廃業傾向は今後も継続すると推察いたします。(クリーニング所施設数 2012年118,188 2011年123,845 95.4%)

一方、テキスタイルサプライ市場は、成熟市場の中、ホテル・病院寝具・ダスコンの市場規模は横這いから微減傾向と推察しております。

ホテルリネン市場は、旅館数の減少や高級ホテルの稼働の伸び悩みがあったものの、都市圏を中心とした宿泊特化型ホテルの施設数が増加傾向にあり、分野としては横ばいから微増傾向にあると推察します。

また、一昨年までは超円高や国際政治問題の影響があり、海外からの入国者数の減少と邦人の海外旅行指向による国内旅行人口の減少が影響し、国内ホテル稼働率が伸び悩んだ時期もありました。しかし昨年は景気回復傾向や円安による海外旅行者数および国内旅行業界の回復により、都市圏を中心に回復傾向であったと考えております。

ダイアパーは貸しオムツから老人用紙おむつへと緩やかでありますますが代替が起きていますと推察されますが、エコ意識が高まり紙おむつとの品質優位性を実現できれば、代替の回避は可能と期待しております。

その他、各種介護施設等の増加により、病院リネンの需要は増加傾向、また近年の衛生志向の高まりから、食品工場等のユニホームリネンが増加傾向にあると思われます。

これにより、ホームクリーニング市場は減少でありましたが、テキスタイルサプライ市場は安定的であったと推察いたします。

2. タイプ別出荷実績 (2013 年年間及び 20 年間の比較)
(ドライ用洗剤)

項目 / 年度	1993 年	2003 年	2012 年	2013 年	93 年比	03 年比	前年比
ドライクリーニング用洗剤(パーク系)	1,655	773	253	216	13.1%	27.9%	85.4%
ドライクリーニング用洗剤(フッ素系)	491	28	47	51	10.4%	182.1%	108.5%
ドライクリーニング用洗剤(石油系)	1,763	1,761	1,112	1,087	61.7%	61.7%	97.8%
ドライクリーニング用洗剤(エタン系)	269	0	—	—	—	—	—
ドライ合計	4,178	2,562	1,412	1,354	32.4%	52.8%	95.9%

ドライ用洗剤は 20 年前の 1993 年から 2,824 トン減、更に 2003 年では 1,202 トン減となり、ホームクリーニングの収益性の高いドライクリーニングの激減が継続。

パーク系の出荷量は、この 20 年で 13% まで減少し、パーク系ドライ市場の未来は非常に暗い状況となっております。

石油系は 2003 年まではパーク系の減少分を石油系へ転換することで、出荷量は持ちこたえておりましたが、この 10 年では減少に転じこの 10 年で 62% まで減少しました。石油系の減少傾向は今後も継続すると推察しており、建築基準法の安全対策に基づく対応策のひとつとして、洗濯方法を繊維に応じたウエットクリーニングへ移行する業者が緩やかではありますが広がっていることも影響していると考えております。

フッ素系に関しては昨年より実績的には出荷量増ではありますが、ここ数年のトレンドから、横ばい傾向が継続すると推察いたします。

総務省統計局『家計調査報告』から一世帯当りのクリーニング代支出額は、1993 年は 18,835 円で 2003 年は 8,765 円減の 10,070 円、2013 年は 11,849 円減の 6,986 円 (93 年比 37.1%) となった。当同業会としても深刻な問題であると捉えております。

(ランドリー石鹼)

項目 / 年度	1993 年	2003 年	2012 年	2013 年	93 年比	03 年比	前年比
ランドリー石鹼	2,666	840	466	392	14.7%	46.7%	84.1%

ランドリー石鹼の減少はランドリー合成洗剤への移行が、この 20 年で急速に進んだ結果、出荷量は約 15% まで減少しました。ランドリー石鹼の減少傾向は今後も継続すると予測しております。ただし、石鹼の特徴を再発掘し、洗濯現場に活かす事ができればトレンドに歯止めを掛けられる可能性は十分に残されていると考えております。

(ランドリー用合成洗剤)

項目 / 年度	1993 年	2003 年	2012 年	2013 年	93 年比	03 年比	前年比
ランドリー用合成洗剤(粉末)	17,518	17,822	18,329	17,660	100.8%	99.1%	96.4%
ランドリー用合成洗剤(液体)	6,061	8,270	7,833	7,841	129.4%	94.8%	100.1%
ランドリー用合成洗剤 計	23,579	26,092	26,162	25,501	108.2%	97.7%	97.5%

ランドリー用合成洗剤は微減となりましたが、ここ数年のトレンドでは横ばいと考えられ、安定した分野になりつつあるものと推察しております。

テキスタイルサプライでは、ホテル稼働率の回復傾向が出荷量の増に影響を与えたと推察いたします。また、病院寝具・ダスコン市場では安定であり、全体として出荷量増となったものと推察します。

尚、ランドリー用液体合成洗剤は、自動投入装置対応として期待される商品ではあり、粉末洗剤同様に出荷量が増加しました。コインランドリー施設(13 年 16,693 11 年 15,985 104.4%)の増加や介護施設内ランドリーでの使用増が要因と判断しております。また、海外リネンサプライヤーの現地視察実績も踏まえ、コストメリットや生産安定化に寄与できるとするならば、今後はテキスタイルリネン分野での使用実績も増加するものと推察します。

20 年間の傾向で見ましても、ランドリー用合成洗剤はテキスタイルリネンの成長により、比較的安定に推移しており、ホームクリーニング分野においても落ち込みはドライクリーニング程ではなく、微減に留まっているものと推察しております。

(ランドリー用ソフター)

項目 / 年度	1993年	2003年	2012年	2013年	93年比	03年比	前年比
ランドリー用ソフター	5,531	5,570	5,002	4,872	88.1%	87.5%	97.4%
(うち濃縮タイプ)			760	792			104.2%

ランドリー用ソフターはほぼ横ばいの状況です。メインの使用分野であるホテルリネン分野は回復傾向にあるものの、リネン単価の減少に伴う使用量の制限が一部にあると思われます。

濃縮タイプについては増加傾向にあり、全体に占める濃縮タイプの割合も徐々に大きくなっており、今後も従来タイプから濃縮タイプへ移行していくものと推察いたします。

20年間の長期トレンドでは出荷量統計は減少傾向となっておりますが、当同業会の技術革新により、濃縮タイプの使用が年々増加傾向で、実質的には繊維への『柔軟性』・『帯電防止』・『抗菌効果』を付与する機能剤として拡大傾向であると推察しております。

(ランドリー用粉末漂白剤)

項目 / 年度	1993年	2003年	2012年	2013年	93年比	03年比	前年比
ランドリー用粉末漂白剤	2,445	1,726	1,597	1,522	62.2%	88.2%	95.3%

ランドリー用粉末漂白剤は減少となりました。近年の減少傾向が継続しており、粉末漂白剤の主ユーザーであるホームクリーニング市場とリンクしているものと推察しております。

20年間の傾向を見ましても、ランドリー用粉末漂白剤は減少傾向が継続、ホームクリーニングで使用されるワンショット洗剤への移行・リネンサプライで過酸化水素（液体漂白剤）への移行が大きく影響しておるものと推察しております。

(合成糊剤)

項目 / 年度	1993年	2003年	2012年	2013年	93年比	03年比	前年比
合成糊剤	2,055	1,864	1,230	1,123	54.6%	60.2%	91.3%

合成糊剤に関しては前年比 91.3%と長期下落トレンドが継続していると考えます。シーツやYシャツ等に対し、ソフトな仕上げが好まれる傾向にあり、出荷量は今後も減少傾向にあると推察します。

(再販用合成洗剤)

項目 / 年度	1993年	2003年	2012年	2013年	93年比	03年比	前年比
再販用合成洗剤 計	7,826	4,207	1,751	1,614	20.6%	38.4%	92.2%
(うちコンパクト)	1,929	1,325	810	786	40.7%	59.3%	97.0%

再販用合成洗剤につきましても、長期の減少傾向に変わりはないと考えます。比較的好調に推移しておりました濃縮タイプも前年 97%と減少に転じました。市販の粉末合成洗剤の低価格、利便性に加え、贈答品には市販ギフト品が使用される傾向にあり、今後もこのトレンドは継続するものと推測します。

1993年頃はプロが推奨する洗剤として、店頭・訪問販売により安定的な出荷であったが、年々市販品との競争が激化し減少傾向に歯止めが掛かっていない状況と推察。

(全出荷量)

項目 / 年度	1993年	2003年	2012年	2013年	93年比	03年比	前年比
年別総合計	48,280	42,861	37,620	36,378	75.3%	84.9%	96.7%

20年間を振りかえると、総出荷量は 11,902 t の減少でありました。ランドリー用合成洗剤は 1922 t 増加しましたが、再販用合成洗剤で 6212 t、ドライ用洗剤で 2824 t、ランドリー用石鹼で 2274 t 減少し、その他項目も減少した結果、当同業会としても厳しい 20 年であったと言えます。

3.まとめ

当同業会の出荷総計では前年比 96.7%という結果でありました。震災の影響がなくなり、ホテルリネンが堅調に推移しつつある中で、メインのランドリー洗剤が前年 97.5%と出荷量減となり、全体としては大きな減という結果となりました。

ただし前述のとおり、分野ごとに明暗が分かれている結果となりました。メインのランドリー用洗剤は厳しい市場環境下でも前年並みを確保しましたが、ドライクリーニング用洗剤の下落傾向に歯止めが掛かっていない現状は深刻です。

業界として需要拡大策を講じない限り下落トレンドは継続すると思われ、特に一世帯当たりのクリーニング支出代金下落トレンドへの歯止めを掛けることが急務と考えております。

以上